

New Series, 55: 75–132.

大原昌宏・上田明良・尾崎研一・佐山勝彦, 2011. トランクウィンドウトラップで採集されたエンマムシ類. さやばねニューシリーズ, (3): 8–12.

(亀澤 洋 350-0825 川越市月吉町 32-17)

【短報】東京都でムネクボスジホソカタムシを採集

ムネクボスジホソカタムシ *Ascetoderes takeii* (Nakane, 1968) はムキヒゲホソカタムシ科に所属する甲虫で、本州からのみ知られる稀種である。タイプ産地は群馬県沼田市で、ほかに栃木県（稲泉, 1984; 川那部ら, 2002）、岐阜県（鳥飼, 1974）、長野県（秋田, 2009; 青木, 2010）などから散発的に記録されている。

筆者は、東京都において本種を採集しているのを報告する。

1ex., 東京都西多摩郡奥多摩町日原一石山～人形山(標高 1,000-1,100 m), 13. X. 2011, 筆者採集・保管。

尾根部のブナ、ミズナラを主体とした森林内の、広葉樹（樹種不明）の立ち枯れの樹皮下から新しい死骸を見いだした。写真に示したように、樹皮がほとんど落ちた胸高直径 25 cm ほどの硬く枯れた立ち枯れで、高さ 150 cm ほどの部分にわずかに残った樹皮下から見つかった。立ち枯れ表面には木材穿孔性の甲虫ないしは膜翅目のものと考えられる脱出孔が少なくなかった。

ムキヒゲホソカタムシ科は捕食習性をもつものが多く (Ślipiński *et al.*, 2010)、近縁属で判明している生態から類推すると、本種もほかの食材性の昆虫を捕食しているものと想像される。小笠原諸島に生息する同属種オガサワラスジホソカタムシ *Ascetoderes popei* Nakane, 1978 は珍しい種ではないが、筆者はカミキリムシ科幼虫の坑道の末端にカミキリムシの幼虫は見いだせず、そこで静止する未成熟な個体を確認したこともある (未発表)。

本種の記録はこれまでのところきわめて少なく、コナラ樹洞内の堆積物中の木片内やミズナラ立ち木上、フジの枯れ木のビーティングなどで得られているが、枯れ木の内部深くに潜んでいるため一般には採集されにくいと考えられる。

引用文献

秋田勝己, 2009. ムネクボスジホソカタムシを長野県で採集. 甲虫ニュース, (168): 13.

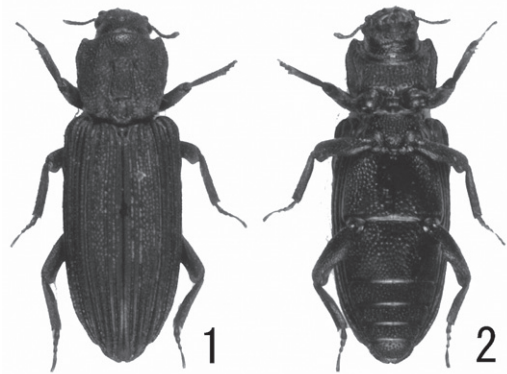


図1-2. ムネクボスジホソカタムシ, 奥多摩町産. (1: 背面, 2: 腹面)。

青木淳一, 2010. ホソカタムシ雑記 (III). 甲虫ニュース, (172): 25–26.

稲泉三丸, 1984. 栃木県産甲虫分布資料. インセクト, 35(2): 60.

川那部真・酒井雅博・久松定成・安藤清志, 2002. 那須御用邸のヒラタムシ上科およびゴミムシダマシ上科甲虫類. p. 123–134. 栃木県立博物館研究報告書, 那須御用邸の動植物相。

Nakane, T., 1968. New or little-known Coleoptera from Japan and its adjacent regions, XXVI. Fragmenta Coleopterologica (18/19): 73–76.

Ślipiński, A., N. Lord and J. F. Lawrence, 2010. Bothrideridae. Erichson, 1845. Leschen, R. A. B., R. G. Beutel and J. F. Lawrence eds., Handbook of Zoology, Coleoptera, Beetles Vol. 2: Morphology and Systematics (Elateroidea, Bostrichiformia, Cucujiformia partim). pp. 411–422, de Gruyter.

鳥飼兵治, 1974. 飛騨高地の鞘翅目について. pp. 190–206. 岐阜県高等学校生物教育研究会編, 岐阜県の動物, 大衆書房。

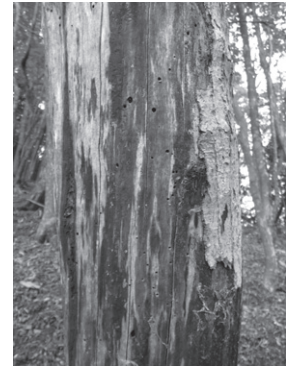


図3. ムネクボスジホソカタムシが見つかった立ち枯れ。

(亀澤 洋 350-0825 川越市月吉町 32-17)